

## 令和4年度「にしのみや学校評価ガイドライン」アンケートの結果

市立小学校(40校) 特別支援学校(1校) 中学校(19校) 義務教育学校(1校)

### 令和4年度の学校評価について

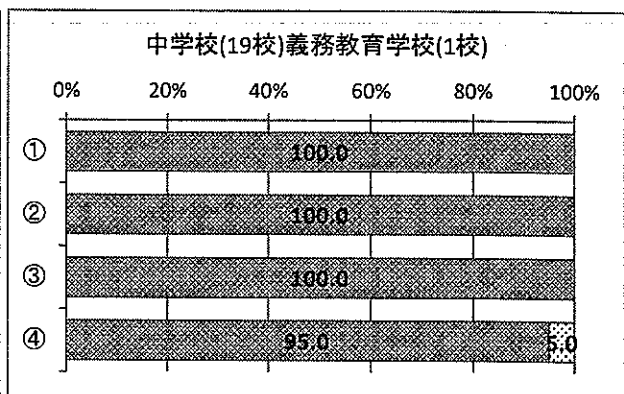
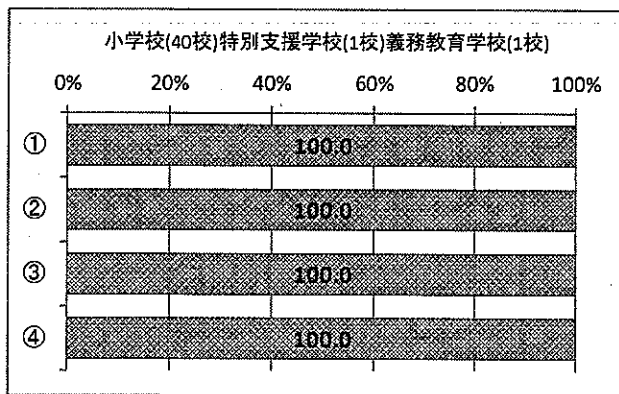
評価項目ごとに規準となる評価指数を示し、それに基づいて学校が自己評価した結果を集計しています。特別支援学校については、小学校に含んで割合を出しています。義務教育学校については、小学校、中学校の両方に含んで割合を出しています。

### 組織運営・連携

#### 〔1〕組織運営

- ① 学校の教育理念や学校経営の目標や方針を明示し、家庭や地域に説明しているか
- ② 評価活動（PDCA）に基づいた自己評価や学校関係者評価の実施と公表を行い、学校の改善に役立てているか
- ③ 各分掌・学年間が「組織」として協働できるしくみがあり、教育活動を円滑に進めているか
- ④ 他校種との交流・連携を図りながら、学校の課題解決へ方向性や手立てを示しているか

■ 達成    ▨ 未達成

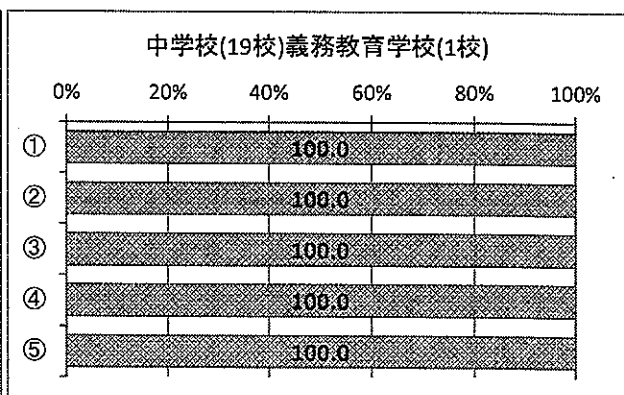
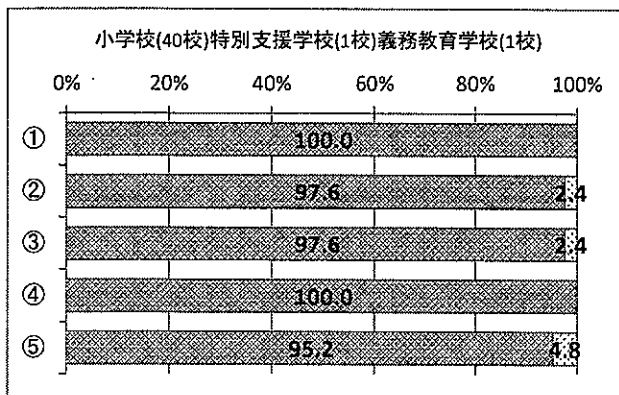


#### ※分析・考察

①～④すべての項目について小・中・特別支援・義務教育学校ともに高い達成率を示している。積極的に家庭や地域への情報発信を行ったり、PDCAサイクルに基づいた学校の改善を進めたりするなど、取組みの質が向上していることが伺える。今後も、各分掌・学年間の協働体制を整えたり、積極的に他校種との交流・連携を図ったりしながら、学校の課題解決に取り組むことが求められる。

#### 〔2〕家庭・地域との連携

- ① 学校運営協議会または教育連携協議会、学校評議員の会議及びオープンスクールなどにおいて、アンケートや聞き取りを行うなどして、外からの声を学校経営に反映させているか
- ② 保護者や地域ボランティアなどの地域の教育力を導入し、家庭・地域との協働体制を確立しているか
- ③ 日々の学習の目的、内容、評価の方法等の学習に関する情報を家庭に提供しているか
- ④ 学校での約束事、家庭での約束事について情報交換を行ったり、学校や家庭・地域での子供の望ましい姿を交流したりして、子育てについて学校・家庭・地域が役割を担うしくみを作っているか
- ⑤ 学校運営協議会または教育連携協議会等を通じて家庭・地域と連携し、子供が地域の行事等に進んで参加するように働きかけ、地域の一員としての自覚を育てているか



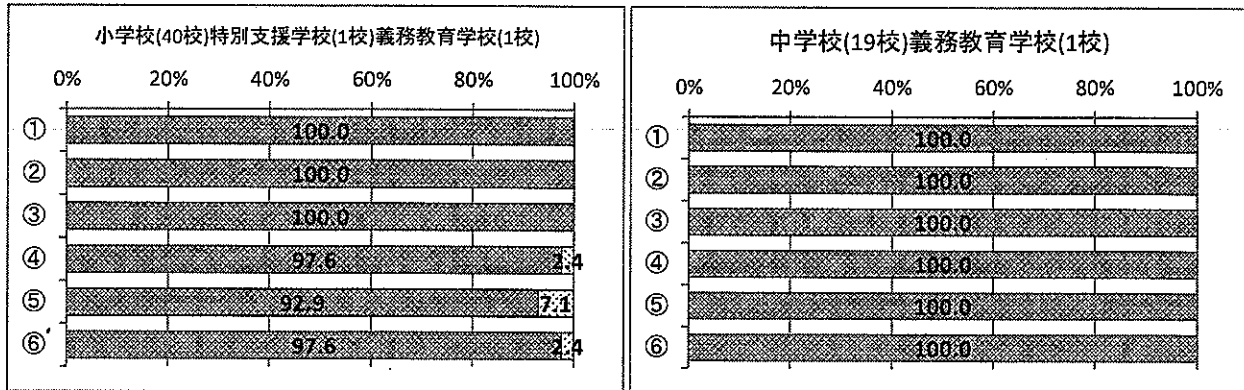
#### ※分析・考察

①～⑤すべての項目について小・中・特別支援・義務教育学校ともに高い達成率を示している。特に、家庭・地域との協働体制が確立され、地域の教育力を取り入れた教育活動が定着してきた様子が伺える。今後も、家庭・地域との連携を強めることや、外からの声を学校経営に反映させることがさらに重要となる。

## 教育活動

### 〔3〕教育課程・学習指導

- ① 子供の発達段階に応じ、学習の基盤となる資質・能力を育成していくことができるよう、各教科等の特質を生かし、教科等横断的な視点から教育課程を編成・実施しているか
- ② 年間指導計画に基づく学習を展開できるように、授業日数及び各教科等の授業時数を確保しているか
- ③ 資質・能力の育成を目指し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が推進されるよう努めているか
- ④ 学力や運動能力、体力に関する調査結果を生かし、向上に向けた具体的な取組みを行い、その成果が表れているか（※子供のあそびや家庭生活等、実態を調査し保育に生かしているか）
- ⑤ 目標に準拠した評価のあり方についての研究・実践を深め、自校の評価規準に基づいた評価活動及び指導方法の改善を行っているか（※学期ごとに校園内研を実施し、市教委や大学の専門家等による指導を受けているか）
- ⑥ ICTを効果的に活用する授業づくりを行い、子供の学習意欲を高めたか（※幼は導入されていない）

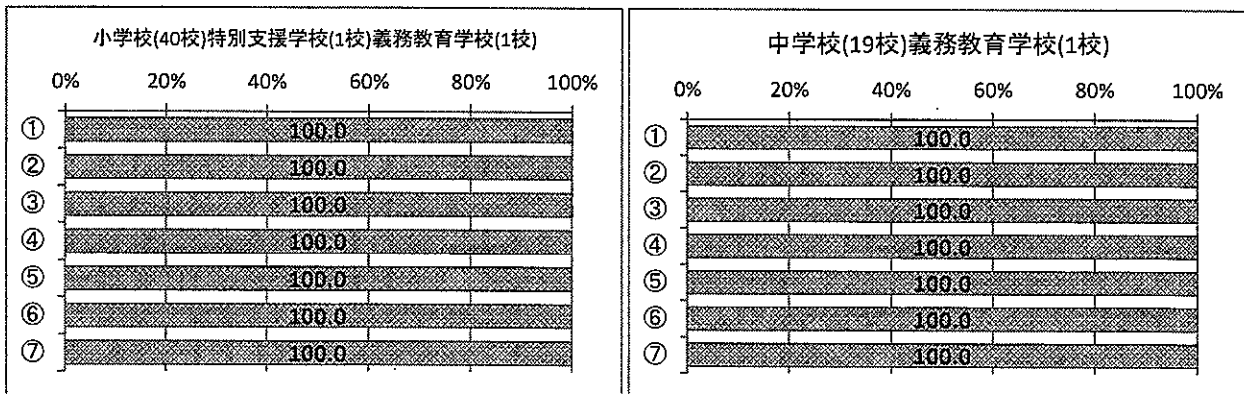


#### ※分析・考察

①②③④⑥の項目について小・中・特別支援・義務教育学校ともに高い達成率を示している。コロナ禍においても、各教科等の授業時数確保に努めている様子や、ICT機器を効果的に活用する授業づくりに努めている様子が伺える。⑤の項目について小学校で課題が残った。今後は、目標に準拠した評価のあり方についての研究・実践を深め、評価活動や指導方法の改善をするとともに「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を、さらに推進する必要がある。

### 〔4〕生徒指導・人権教育

- ① 子供や社会の変化に対応した生徒指導方針となっているか（※学級経営方針や週計画に生かされているか）
- ② いじめ、問題行動、不登校、虐待等に対して、必要に応じてスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを活用するなど、適切かつ迅速な対応ができているか
- ③ 家庭との信頼関係を深め、関係機関とも連携を図っているか
- ④ 互いに尊重し支え合い、所属感の持てる集団ができているか
- ⑤ 個に応じた関わり方等の指導計画を立案し実践しているか
- ⑥ 不登校生の評価について、できる限り多くの評価資料を集め、適切な評価活動を行うことに努めているか（※家庭と連絡を密にし、適切に対応しているか）
- ⑦ 人権教育の4つの内容をバランスよく計画し、学校の教育活動全体を通して実施しているか

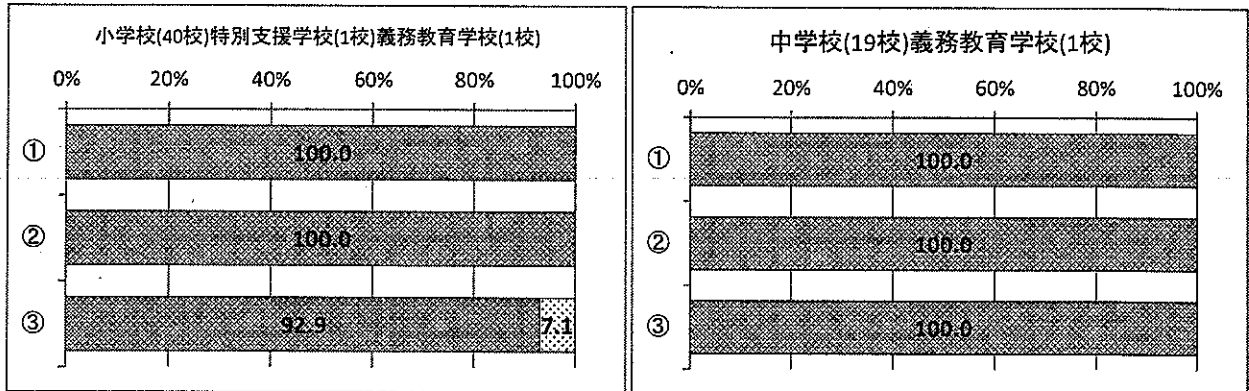


#### ※分析・考察

①～⑦すべての項目について小・中・特別支援・義務教育学校ともに達成率は100%である。各校が生徒指導方針に基づき、家庭や関係機関と連携しながら諸課題に対応している様子が伺える。生徒指導・人権教育はともに子供の生き方に関わるものであり、保護者との信頼関係の構築、迅速な対応、個に応じたきめ細かな取組みを、さらに進めていくことが求められる。また、今後もすべての学校で、不登校生へ適切な指導と評価活動を行う必要がある。

〔5〕 道徳教育

- ① 各教科等との関連を図り、4つの視点に含まれる全ての内容項目を取り上げた「道徳科の年間指導計画」を作成して実践し、子供の育ちに於じた効果が出ているか（※年間指導計画、週計画に組み込まれているか）
- ② 全教育活動の中で道徳性を養うための指導を行い、子供の育ちに於じた効果が出ているか（※日々の保育の中で総合的に指導されているか）
- ③ 家庭や地域に、学校の取組みを積極的に発信したり、地域教材を扱う授業等に参加や協力を得るなどして、子供に地域の一員としての自覚をうながす取組みを行っているか（※家庭との連携が十分できているか）

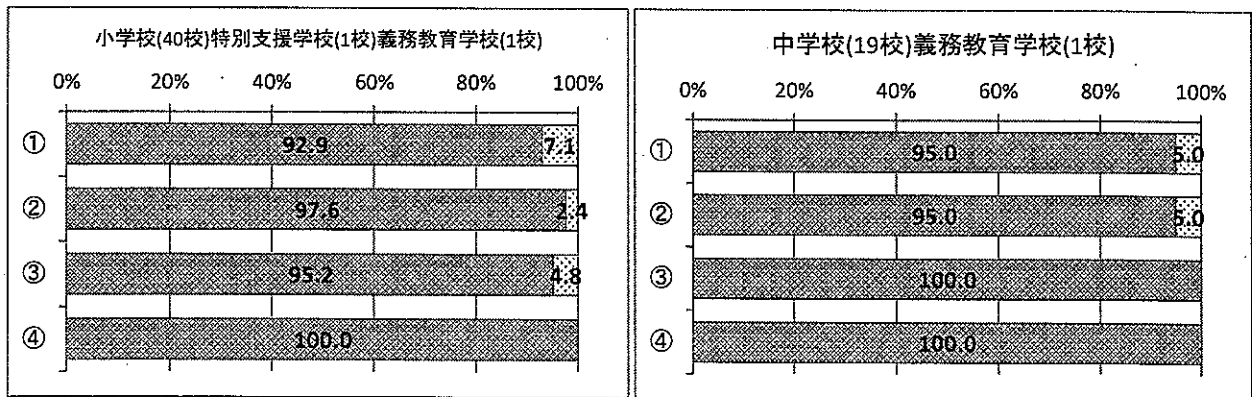


※分析・考察

①②の項目について小・中・特別支援・義務教育学校ともに高い達成率を示している。各校が年間指導計画をもとに授業実践に取り組んでいる様子が伺える。一方で③の項目について小学校で課題が残った。各取組みについて家庭や地域への啓発をより一層進めるとともに、参画・協働による道徳教育を積極的に推進することが求められる。

〔6〕 キャリア教育

- ① 学校の状況をふまえ、特別活動を要としながらキャリア発達の段階を考慮した組織的・計画的な取組みを行っているか
- ② 兵庫版「キャリア・パスポート」、キャリアノートなどを作成・活用し、子供が学習や活動を見通したり、振り返ったりして自分を見つめることで、主体的にキャリアを形成していく力を育成する取組みをしているか
- ③ 計画的な進路相談、進路情報の幅広い収集や適切な提供等、進路指導体制が充実しているか
- ④ 子供の育ちに於じて、自己の適性や生き方を主体的に考える学習場面や機会を設定しているか

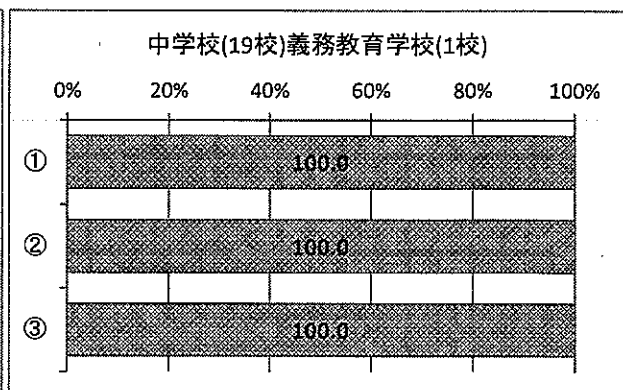
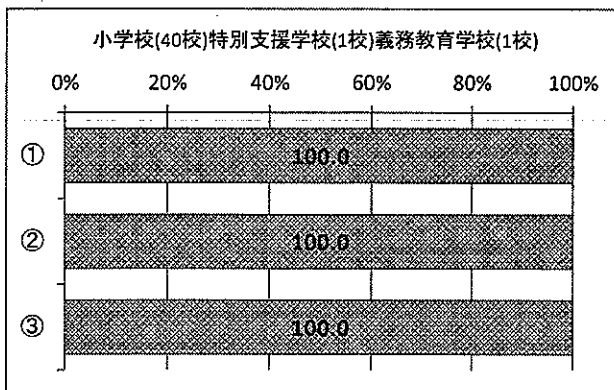


※分析・考察

②③④の項目については小・中・特別支援・義務教育学校ともに高い達成率を示している。①の項目については課題が残った。今後は、義務教育期間の9年間やその先も見据えて、キャリアノートを活用するなど取組みの工夫を進め、教育活動をキャリア教育の視点から整理するとともに、「指導計画」「指導体制」を発達段階に応じて組織的・計画的に整備することが求められる。

## 〔7〕 特別支援教育

- ① 「個別の教育支援計画」を策定し、「個別の指導計画」を作成するとともに、検証・改善のサイクルを確立し、支援及び指導内容の明確化、共有化を図っているか
- ② 特別支援教育コーディネーターが中心となり、校内委員会を定期的（毎月・毎学期）に開催するなど、校内の支援体制が組織として機能しているか
- ③ 適切な支援及び指導の内容や方法の工夫を図る校内研修等を定期的に行い、障害等による学習上又は生活上の困難を改善し、克服するように進めているか

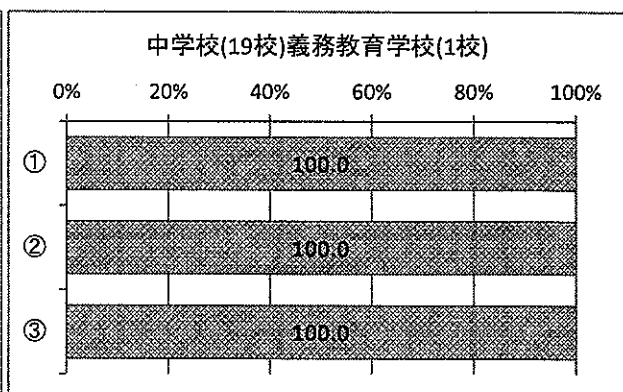
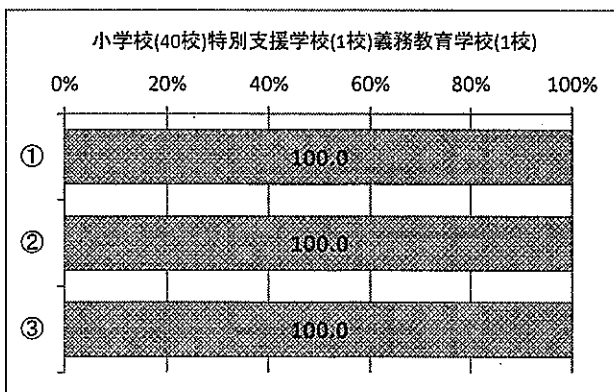


### ※分析・考察

①～③すべての項目について小・中・特別支援・義務教育学校ともに達成率は100%である。個に応じた指導方法の工夫・改善、校内での組織的な支援などが推進されていることが伺える。今後は、インクルーシブ教育システムを構築していくにあたって、合理的配慮の提供や、一人ひとりの教育的ニーズに応えるための指導の評価、改善を行うことも含めた教職員の専門性をさらに高めていくことが求められる。

## 〔8〕 学校図書館教育

- ① 学校図書館を効果的に活用するために「学校図書館経営計画」を作成し、適切に実施しているか
- ② 日常的に読書に親しみ、豊かな人間性を育むことができ、すすんで通いとなる学校図書館づくりを進めているか
- ③ 読書習慣を定着させるとともに確かな学力や情報活用能力を育むために、学校図書館の活用を図っているか

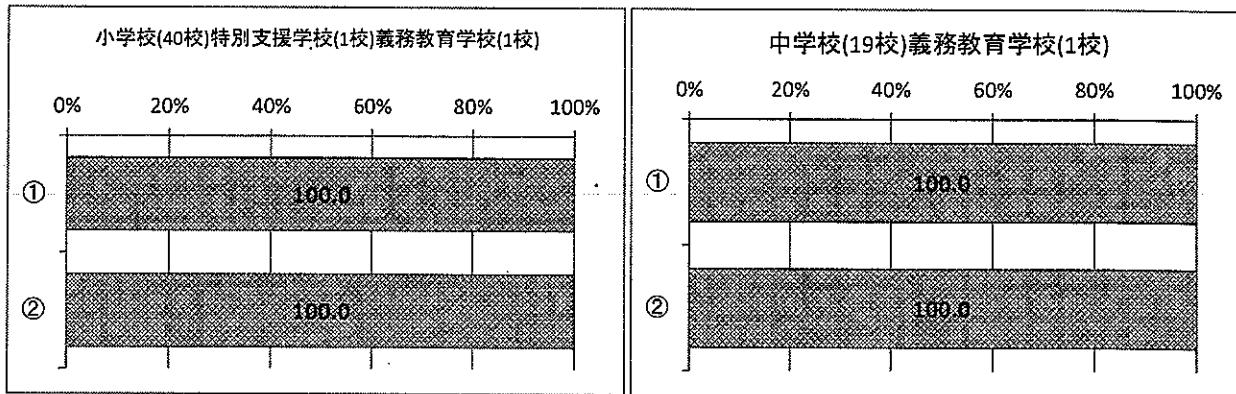


### ※分析・考察

①～③すべての項目について小・中・特別支援・義務教育学校ともに達成率は100%である。学習指導要領の改訂に伴い学校図書館が果たす役割は大いに期待されている。学校図書館を活用することによって、読書習慣の定着や、学習指導要領に示されたねらいの達成につながるように、今後、各校でのさらなる研究が求められる。

〔9〕保健教育、保健管理

- ① 自校の実態を踏まえた学校保健計画を策定し、保健教育、保健管理、学校保健委員会等の保健組織活動の推進に努めているか
- ② 日常の健康観察、学校精神保健コンサルテーションなどを通して、子供のメンタルヘルスの理解と対応に努めているか



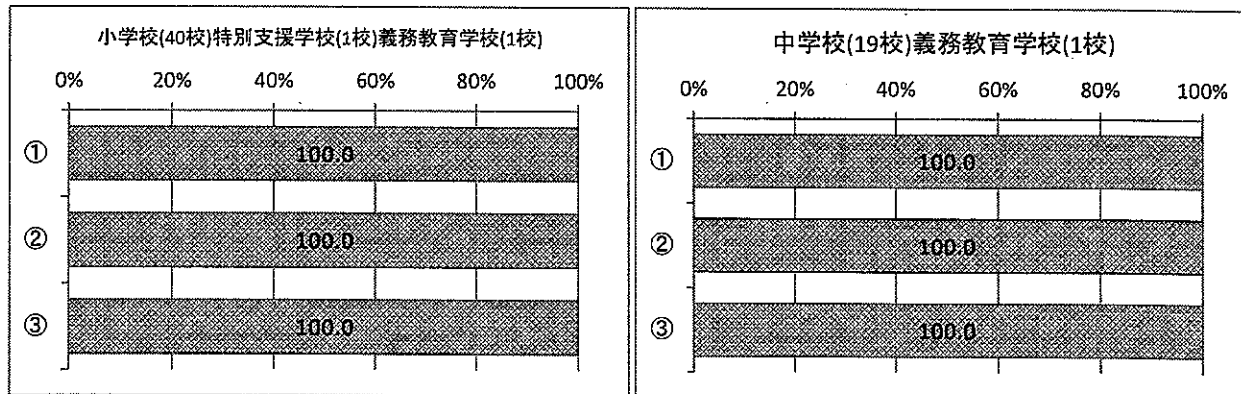
※分析・考察

①②すべての項目について小・中・特別支援・義務教育学校ともに達成率は100%であり、学校保健計画の策定及び学校保健の推進の取組みが定着していることが伺える。コロナ禍の中、子供の日々の健康観察やメンタルヘルスの理解と対応の重要性は増しており、家庭・地域等とも連携した取組みをさらに進めていくことが求められる。

研究・研修

〔10〕研究・研修

- ① 子供の実態から学校課題を明確にし、課題の解決に向けて、組織的・計画的に研究・研修に取り組んでいるか
- ② 進んで保育・授業を公開し、教師自らが積極的に学び、向上する姿勢を持って研究・研修を行っているか
- ③ 幅広い視野から取り組むべき研修課題を見出し、その解決に向け努力しているか



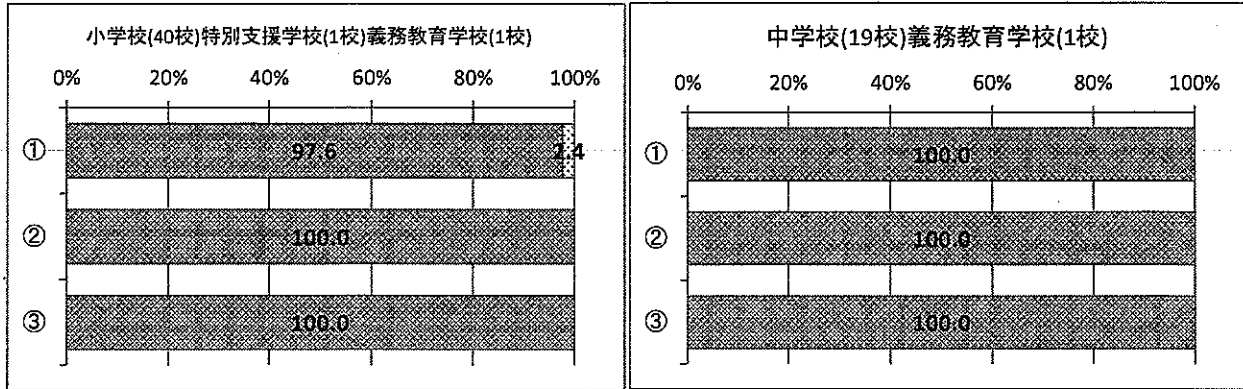
※分析・考察

①～③すべての項目について小・中・特別支援・義務教育学校ともに達成率は100%である。各校において組織的な研究・研修を進める中で、各教員が幅広い視野から自身の課題を把握すること、そして授業公開等により教員が自発的に力量を高める取組みを進めることで、さらに教員の指導力向上につながると考えられる。

**環境・管理**

**[11] 施設・設備**

- ① 学校が生活の場として、清潔で美しく整っているか
- ② 子供が活用しやすい学習の場としての環境整備ができているか
- ③ 施設・設備の安全点検を定期的実施し、危険の早期発見及び改善で事故発生防止に努めているか

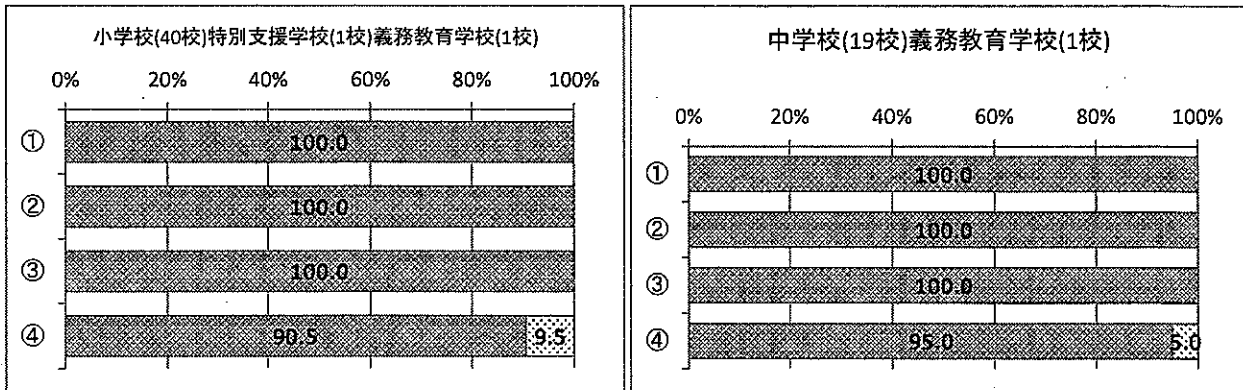


**※分析・考察**

①～③すべての項目について小・中・特別支援・義務教育学校ともに高い達成率を示している。今後も安全点検の徹底など事故防止への万全の体制をとるのはもちろんのこと、清潔で美しい環境の整備にも努めていきたい。

**[12] 安全管理**

- ① 個人情報の扱い、情報モラルの徹底等を図るために情報管理体制を整え、定期的な点検活動等を行っているか
- ② 防犯を含む生活安全・交通安全・災害安全（防災）を総合した学校安全計画を策定し、安全管理と安全教育を一体的に進めているか
- ③ 子供の安心・安全を守る危機管理体制（心のケア含む）及び救急体制が確立しているか
- ④ 家庭・地域と連携して、地域の実情に応じた防災教育を進めたか



**※分析・考察**

①～③の項目について小・中・特別支援・義務教育学校ともに達成率は100%である。各校において、安全管理・危機管理に関する体制が確立していることが伺える。一方で④の項目について課題が残った。今後は教育連携協議会の活動等から、保護者や地域との連携を深めることで、地域の状況に合わせた防災教育の推進が求められる。